

# 5年 道徳

主題名	自分にできることを
中心内容項目	C-12 主として集団や社会との関わりに関すること（規則の尊重）
	駅前広場はだれのもの
令和元年	6月20日（木） 2校時
児童	5年 1組 43名
授業者	新川 里 織

## 1 主題設定の理由

### (1) ねらいとする道徳的価値（教師の価値観）

第5学年及び第6学年の内容の「C-12 規則の尊重」は、「法やきまりの意義を理解した上で進んでそれらを守り、自他の権利を大切に、義務を果たすこと」とある。

法やきまりは個人や集団が安全にかつ安心して生活できるようにするためのものであり、その意義について理解し進んで守る態度を育てることが大切である。また、よりよい人間関係を築いていくためには、自他の権利を尊重するとともに、「自分がなにをすればよいのか」「自分には何ができるか」と自らの義務について考え行動していくことが必要である。

集団の一員としての自覚を促し、果たすべき義務や、自分にできることに取り組む大切さを考えさせたい。

### (2) 児童の実態（児童観）

本学級の児童は、明るく活発で、学級活動や行事など積極的に取り組む子が多い。学校生活のきまりを守ろうとする意識や正義感の高い児童も多く、任された仕事は最後までやり遂げようとする姿勢も見られる。みんなを使う場所や物は大切に使用しなければならないことや、きまりを守らないとお互いに気持ちよく生活できないことも理解している。

しかし実際には、自分に直接の影響がなければ、無責任に扱ってしまったり、誰も気が付かなければときまりを破ってしまったりすることがある。また「自分じゃないから」「自分の担当でないから」と目の前の出来事から目をそらし、避けようとする児童もいる。自分には関係のないことにせず、集団の一員として、自分に出来ることは何か、何をすべきかを考え、行動に移していくことの大切さを感じさせ、実行していこうとする心情を育てたい。

### 【事前アンケート】

内容	結果
きまりは必要だと思いますか。	はい……42人、いいえ……1人 (内容) きまりがなければ、自分勝手な行動で人のことを傷つけるかも・きまりがないと自由にしてしまい、大変なことになるから・きまりがなければ危ないわけにあうかもしれないから・好き勝手にしてみんなが気持ちよく生活できない・きまりを守ることによって安全で平和によって暮らせる
きまりを守っていますか	はい……2人 だいたい守っているが時々やぶってしまう……35人 あまり守れていない……6人
きまりが守られていないと感じたり、その様子を見たりした時あなたはどうしましたか。	注意した……31人 何も言えなかった（できなかった）……6人 自分が直した、自分が片づけたなど……4人 自分は正しい行動をした……1人 わからない……1人

### (3) 教材への思い（教材観）

本教材は、駅前広場に置かれたたくさんの自転車が通行の妨げになっていることが子ども会で話題になり、自分たちでなんとかできないかと提案し、清掃活動に取り組む話である。

きまりを守らない人やそれを迷惑だと感じる人がいることから、きまりを守る大切さを考えるとともに、自分たちの手で何とかできないかと提案した人の気持ち、提案された人の気持ちに共感することを通して、集団の一員としての行動のあり方について考えていくことのできる教材である。

提案された清掃活動に必要性を感じていなかったのはなぜか、清掃活動を行おうと気持ちが変わったのはなぜか、清掃活動によってどのような変化をもたらしたかを考えることを通して、学校や社会の中で自分にできることを考え、行動していくことの大切さを感じさせたい。

## 2 総合単元ユニットとの関係

集団生活を送るうえで、きまりを守ることが大切であることは理解しているものの、できない実態があることに目を向けさせる。また、人と人がよりよい関係を築き、共に生活していくためには、自分のことだけを基準にするのではなく、集団全体のことを考える必要があることにも気付かせ、その一員としての行動のあり方について考える。人任せにせず、自分にできること気が付いたことは実行し、協力しながら自分や自分の学級を高めていこうとする意欲を高めたい。

## 3 研究との関わり

### 問題意識をもつようにする導入の工夫

子供が自分の問題として捉え、その追究や解決について必然性をもって行うようにする。

### 学び合う雰囲気づくりの工夫

教師と子供の温かい人間関係、子供同士の認め合いや励まし合いのできる関係によって、お互いが心を開き、自由に話し合うことができるようにする。

### 自我関与させる展開の工夫

子供が読み物教材の登場人物に託して自らの考えや気持ちを素直に語る中で、道徳的諸価値の理解を図る。

### 生活とつなげる振り返りの工夫

学習内容や学習活動を俯瞰して見つめる振り返りをする中で、自分の生活や行動、今後の発展へとつなぐことに着眼する機会とする。

## 4 本時の学習

### (1) 本時のねらい

- ・集団や社会の一員としての自覚をもち、自分にできることを進んで行おうとする心情を育てる。

### (2) 本時の展開

	活動内容・予想される児童の反応（○発問 ◎中心発問）	教師の支援・評価・研修との関わり ●支援 □評価指標 ◎研修との関わり
価値への方向付け	<b>1 ねらいとする道徳的価値に対する興味・関心を高め、「課題」を設定する</b> ○身の回りにどんなきまりがありますか。 ・廊下を走らない ・休み時間に次の学習の準備をする ・話をきちんと聞く ○これらのきまりを守っていますか。 ・守っている ・守れていない ○きまりが守られていない時、どう思いますか。 ・困る ・守ってほしいと思う ・気持ちよく暮らせない	●学び合う雰囲気づくりを行う。  ◎きまりを守れない現実や守られなかった時どうなるかに目を向けさせ、問題意識を高める。
	<b>《本時の課題》</b> <b>みんなが気持ちよく生活するために大切なことについて考えよう</b>	
	<b>2 教材「駅前広場はだれのもの」を通して、「課題」を追究する</b> ○子ども会で提案されたのはどんなことですか。 ・駅前広場のごみと自転車をどうにかしたい ○提案に賛成した人が少なかったのはどうしてですか。 ・自分が散らかしたわけではない ・自分にはあまり関係ない ・面倒くさい ・やった人が片づけたらいい	●教材文の内容を捉えられるように、駅前広場の様子やきまりを守れない人の心情についても適宜取り上げる。  ◎提案に賛成しなかった人の心情を考えさせる。
	◎提案に反対していた人が、考えを変えたのはどうしてでしょう。 ・世話人のおじさんの言葉で、この町のためになるならと考えた ・このままだと不便だし、あぶないの ・自分たちのまちだから、自分たちできれいにした方がよいか ・自分に出来ることをしようと思ったから。 ○みんなが気持ちよく生活するために大切なことはなんでしょう。	◎清掃活動に取り組もうとしたのは、どんなことがきっかけか、どう思ったのかを考え、ノートに書かせる。
価値の追求・把握	<b>《共通解》</b> ・一人一人がきまりを守る。 ・みんなのために自分が出来ることをする。	●子供たちが、学習したことと日常生活とのつながりを意識できるように、アンケート結果などを活用する。
	<b>3 資料から離れ、自分自身の問題として深めたり広げたりする</b> ○きまりが守られていないと気付いた時、どのように行動しましたか。また、これからどのように行動していきたいと思いませんか。	◎本時の学習で学んだことについて、自分のこれまでとのつながりや、これからの生き方にどのように生かすことができるかを考える
価値の自覚	<b>4 価値について納得解をまとめる</b> ※ 本時の学習を振り返り、気付いたこと、再確認したことなど、自分の考えをノートにまとめる。 ・～ということがわかりました。 ・前は～だと思っていたけれど、～だと気が付きました。 ・これからの自分は～。	□自分に出来ることを学級や学校など集団生活の中で進んで行おうとする意欲をもつことができたか。 【発言・ノート】
	意欲化	

### (3) 本時の評価

- ・集団や社会の一員としての自覚をもち、自分にできることを進んで行おうとする心情を育てることができたか。